

平成 28 年 3 月 24 日
内閣府宇宙戦略室

三菱重工による UAE 火星探査機打上げ受注及び日 UAE 宇宙協力について

- アラブ首長国連邦(UAE)の 火星探査機打上げサービス を三菱重工が受注し、3月22日、アブダビにおいて、日UAE間の宇宙分野における協力に関する式典の際に、三菱重工とムハンマド・ビン・ラーシド宇宙センター(MBRSC)との間の契約書が締結された。同時に、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)・UAE宇宙庁間の機関間協定、UAE宇宙庁／東京大学中須賀・船瀬研究室／東京大学地球観測データ統融合連携研究機構の3者による協力文書及び両国間の産業交流・人材交流に向けた協力に関する内閣府宇宙戦略室による協力趣意書が署名・手交された。
- UAE火星探査計画は、UAE建国50周年となる2021年の記念事業としての国威発揚事業。UAEは、2015年にUAE宇宙庁を設立し、最重要国家事業の一つとして進めている。今回の契約以降も、UAEにおける宇宙関連分野のインフラ等の調達が引き続き期待されている。
- 我が国の石油権益の多くがアブダビ(UAE)にあり、我が国のエネルギー確保のためにも関係強化が期待される中、UAEからは資源依存経済からの脱却に向けた宇宙分野における研究開発・産業振興・人材育成に係る協力が期待されてきたもの。
- これまで、昨年8月に設置した内閣府宇宙政策担当大臣主宰の宇宙システム海外展開タスクフォースの中にUAE作業部会を設置し、我が国の宇宙技術の優位性をアピールしつつ、UAEとの宇宙協力を推進してきた。今回の受注は タスクフォースの最初の大きな成果 であり、今後とも関係省庁と協力しながら、このような宇宙協力を推進することとしている。

以上

2016年3月22日発行 第5739号 担当：諏訪下・小野田

UAE ドバイの MBRSC から火星探査機打上げ輸送サービスを受注
海外顧客から 4 件目

三菱重工業は、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイ政府宇宙機関である MBRSC（The Mohammed bin Rashid Space Centre）から、火星探査機の打上げ輸送サービスを受注しました。UAE 建国 50 周年を迎える 2021 年に、中東初となる無人探査機の火星到着を目指すもので、2020 年に H-IIA ロケットでの打上げを予定しています。今回は海外顧客から 4 件目の衛星打上げ輸送サービス受注となります。

この火星探査ミッションは、アブダビやドバイなど 7 首長国による UAE 連邦政府が 2014 年 7 月に設立した UAE 宇宙庁（Space Agency）が統括し、MBRSC は火星探査機設計等技術面の取りまとめを実施しています。

海外からの打上げ輸送サービス受注では、韓国航空宇宙研究院（KARI）の多目的実用衛星 KOMPSAT-3、初の商業衛星打上げとなったテレサット・カナダの通信放送衛星 TELSTAR 12 VANTAGE、MBRSC の前身であるドバイ EIAST（The Emirates Institution for Advanced Science and Technology）の観測衛星ハリーファサット（KhalifaSat）に続くものです。また、2012 年の KOMPSAT-3 と 2015 年の TELSTAR 12 VANTAGE に続き、2017 年度にはハリーファサットの打上げを予定しています。

MBRSC は 2006 年に EIAST として設立されたドバイ政府の宇宙開発機関で、2015 年に名称変更され、現在、地球観測、衛星ナビゲーション、衛星通信などの事業に取り組んでいます。

H-IIA ロケットは、これまで 30 機中 29 機で打上げに成功している日本の基幹ロケットです。打上げ成功率は約 96.7% で、世界トップクラスの高い成功率を誇っています。

1975 年に始まったわが国の宇宙ロケット開発で主要な役割を果たしてきた当社は、国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）からの技術移転を受け、H-IIA は 13 号機（2007 年 9 月打上げ）から、また、H-IIB は 4 号機（2013 年 8 月打上げ）から、当社が製造から打上げまで一貫して担う体制となっています。

当社は今回の受注を弾みとして、国内外の衛星打上げ輸送サービス市場で一層積極的に営業活動を展開し、わが国の自在的な宇宙活動を支える産業基盤の確立に中心的な役割を果たしていきます。

担 当 窓 口：防衛・宇宙ドメイン 宇宙事業部

以 上